

表 1 手立てシート A

A 主に 主体的な学び	
導入	<p>①興味・関心をもって取り組むことができるようにするために、課題設定を工夫する。 (目的意識・相手意識が明確な課題, 身近な課題, 生徒の問題意識から生じた課題, 自己選択できる課題等)</p> <p>②興味・関心をもって取り組むことができるようにするために、単元の魅力を語る。</p> <p>③興味・関心をもって取り組むことができるようにするために、単元で身に付けたい力が、生活や学習のどのような場面で役立つかを示す。</p> <p>④学習の見通しをもつことができるようにするために、生徒と一緒に学習計画を立てたり、学習計画を示したりする。</p> <p>⑤学習の見通しをもつことができるようにするために、学習にかかる時間や単元の流れなど、学習計画についてグループで話し合う場を設定する。</p> <p>⑥学習のゴールを明確につかむことができるようにするために、単元で行う言語活動について、教師が演示をしたり、教師が作成したモデルを提示したりする。</p> <p>⑦1 単位時間の見通しをもつことができるようにするために、「めあて」と学習の流れを示す。</p> <p>⑧学習の見通しをもつことができるようにするために、学習計画表やワークシートなどに、身に付けたい力を明示する。</p> <p>⑨学習の見通しをもつことができるようにするために、学習の評価の仕方を具体的に説明する。</p>
展開	<p>⑩粘り強く学習に取り組むことができるようにするために、生徒が自己選択したり、自己決定したりする場を設ける。</p> <p>⑪一人でも考えることができるようにするために、ヒントカード等を準備する。</p> <p>⑫思考を可視化することができるようにするために、自分の考えを整理したり、構造化したりする場を設定する。</p> <p>⑬自ら情報収集することができるようにするために、ブックリスト*¹やレファレンスサービス*²等を利用する。</p> <p>⑭生徒が自分の学習過程や思考の過程をたどることができるようにするために、板書やワークシート等を工夫する。</p>
まとめ	<p>⑮自己の変容に気付くことができるようにするために、ノートやワークシート等を基に、自分の考えの過程を振り返らせる。</p> <p>⑯自分の学びのよさや課題に気付くことができるようにするために、振り返りの視点を示す。</p> <p>⑰学んだ内容を再確認し、次の学習につなげることができるようにするために、単元を通して身に付けたい力を振り返る場を設定する。</p>

※ここに示しているのは、あくまでも手立ての一例です。

* 1 「ブックリスト」

ある基準で選択され、本を薦めたり、紹介したりするために作られた目録のことです。

* 2 「レファレンスサービス」

日常の疑問解決や調査・研究のための資料探しなど、必要な資料・情報を探している人に、図書館資料(本など)や情報の探し方を知らせ、調べ物を手伝うサービスのことです。



表 2 手立てシート B

B 主に 対話的な学び	
導入	<p>①意欲をもって対話できるようにするために、話し合う必然性のある課題を設定する。 (答えが複数ある課題, 単純に答えることができない課題等)</p> <p>②スムーズに話し合いを行うことができるようにするために、グループ内で役割を決めて話し合いを行わせる。 (司会, 記録, 発表, タイムキーパー等)</p> <p>③スムーズに話し合いを行うことができるようにするために、話し合いの目的や進め方, ルール等を明示する。</p> <p>④自らの考えを広げることができるようにするために、個人の「問い」を共有する場を設定する。</p> <p>⑤自らの考えを広げることができるようにするために、課題に対する予想や解決方法を話し合う場を設定する。</p>
展開	<p>⑥自らの考えを広げることができるようにするために、最適な対話の形態を選択する。 (ペア学習, グループ学習, 教職員や地域の人との対話, 資料との対話等)</p> <p>⑦自らの考えを広げることができるようにするために、話し合いの目的に合ったグループの形式, 人数, 構成を工夫する。</p> <p>⑧立場を明確にした交流を行うことができるようにするために、話し合い活動の前に、自分の考えとその根拠をもたせるための時間を確保する。</p> <p>⑨自分の意見と区別することができるようにするために、他者の意見はペンを使って書かせたり、書く場所を変えたりさせる。</p> <p>⑩自他の考えを可視化できるようにするために、ホワイトボード等を用いて考えを整理させる。</p> <p>⑪自分の考えを深めることができるようにするために、情報の整理の仕方を示す。 (比較する, 関連付ける, 順序立てる, 分類する, 構造化する等)</p> <p>⑫自分の考えを確かなものにするようにするために、自分と他者の共通点や相違点を比較させる。</p> <p>⑬自らの考えを深めることができるようにするために、理由や根拠 (なぜ, どうして), 具体例 (例えばどうなる) など, 問い返しの質問を一覧表にしたものを, 教室に掲示したり配付したりする。</p> <p>⑭考えを確かなものにするようにするために、話し合いのまとめ方を示す。 (付箋に書いてグルーピングする, ホワイトボードに図を使ってまとめる等)</p>
まとめ	<p>⑮自らの考えを深めることができるようにするために、共有した内容を書いたり発表したりして表現させる。</p> <p>⑯自らの考えを深めることができるようにするために、多様な他者 (教師, 生徒, 地域の人など) からの評価の場を設定する。</p>

※ここに示しているのは、あくまでも手立ての一例です。

表 3 手立てシート C

C 主に 深い学び	
導入	<p>①「問い」を見いだすことができるようにするために、課題設定を工夫する。 (多様な考えや感じ方が生まれる課題, 簡単には解決できない少し難しい課題, 他教科と関連させた課題等)</p> <p>②自分に合った「問い」を選ぶことができるようにするために、複数の「問い」を提示する。</p> <p>③自分の「問い」をもつことができるようにするために、学校図書館やインターネット等から多様な情報を収集させたり、提示したりする。</p>
展開	<p>④情報を精査することができるようにするために、集めた多様な情報を比較したり関連付けたりする場を設定する。</p> <p>⑤ペアやグループで交流した内容を共有することができるようにするために、全体で発表したり掲示したりする。</p> <p>⑥既習の知識及び技能を活用することができるようにするために、ファイリングしておいたワークシート等を振り返らせる。</p>
まとめ	<p>⑦身に付けた知識及び技能, 考え方等を他の学習でも活用できるようにするために、ファイル等に整理させる。</p> <p>⑧成長を自覚し, 次の学習につなげることができるようにするために、自分の変容について振り返らせる。</p> <p>⑨自分の学びを振り返ることができるようにするために、「気付いたこと」「考えたこと」「できたこと」「これからやってみたいこと」等を自分の言葉で表現させる。</p> <p>⑩学習したこととどのような価値があるかを認識できるようにするために、実生活, 既習の学び, 他教科との関連を想起させる。</p> <p>⑪学んだことを他の学習につなげることができるようにするために、学びを活用する場や, 新たな疑問を生み出す場を設定する。</p> <p>⑫学んだことと学校生活や実社会とのつながりに気付くことができるようにするために、身に付けた資質・能力が使える場を提示する。</p>

※ここに示しているのは、あくまでも手立ての一例です。